

愛媛の伝統的工芸品

新作展



進化を続ける新たな伝統。

砥部焼

Tobe yaki

出展社

- (有)大西陶芸
- 土造窯



生活に根づく、「日本三大かすり」。

伊予かすり

Iyo Kasuri

出展社

- 白方興業(株)
- 愛媛県縫製品(工)

江戸時代、現在の松山地方では農家の副業として縞木綿が織られていましたが、享和年間(1801~1803)、愛媛県温泉郡垣生(はぶ)村(現松山市西垣生(にしはぶ)町)今出生まれの鍵谷(かぎや)カナが考案したかすりは、他県へ移出されるに伴って伊予かすりと呼ばれるようになりました。

伊予かすりは、久留米かすり、備後かすりと並ぶ日本三大かすりのひとつでもあり、素朴な味わいと深い色合いが特徴です。

明治時代には一大産地でしたが、現在では、土産物を中心に洋服やバック、財布などが作られ、人々の生活用品として愛用されています。



明治初期に始まった野村町の養蚕は、傾斜地に広がる畑地に適し、収益性の高さから急速に普及しました。

昭和6年には繭市場、乾繭、倉庫業務を行うため東宇和郡購買販売組合を創設し、昭和8年には製糸工場を建て「野村の繭から野村の生糸を」という悲願を達成し、養蚕農家の経営は飛躍的に安定しました。

恵まれた環境の中で飼育された繭、脇川の清流と高度な技術によって生産された生糸は「カメリア(白椿)」の商標で販売され、国内はもとよりエリザベス女王が戴冠式に着用したドレスに使用されるなど海外においても高い評価を得ています。

世界に誇る「カメリア」シルク。

野村のシルク

Nomura Silk

出展社

- 西予市野村シルク博物館



落ち着きと気品に満ちた工芸品。

伊予の竹工芸

Iyo Bamboo craft

出展社

- 虎竹工房西川
- ENSOUND

江戸時代より戦前かけ、茶の湯道具や花器などとして大きく発展してきました。戦後は安価なプラスチック製品に押されながらも伝統は受け継がれ、現在に至っています。

伊予竹工芸品の特徴として、高級感のある赤と黒を二重に染色した「文人色(ぶんじんいろ)」と呼ばれる染色技術やその場の感性でリズムカルに編んでいく「やちゃら編み」と呼ばれる編組技術があり、落ち着きと気品に満ちた工芸品として好評を得ています。

また最近、異業種とのコラボレーションで新たな作品が誕生しており、消費者のライフスタイルに合わせた、竹工芸産業の新たな可能性を模索しています。

▼竹・光・音のコラボ
TOMORISPEAKER



華やかで繊細な、「愛媛の芸術」。

伊予の水引

Iyo Mizuhiki

出展社

- (有)ヤマニシ

江戸時代に女性の髪を結ぶために使われていた元結が水引の前身で、水引の製造は大正初期より本格化し、現在では長野県飯田市とともにわが国の二大産地を形成しています。

水引製品の特徴は一本の水引が醸し出す「曲線美」で、華やかさと繊細さを兼ね備えた美しさは芸術の域に達しています。産地である四国中央市は水引を金封・結納品・水引工芸品として開発し、最近ではその伝統美を受け継ぎながら、ストラップや髪飾りなどの新しい商品づくりにも取り組んでいます。

人々は水引を結ぶことによって贈り物に込めた思いをしっかりとその中に封じ込めてきました。伊予の水引はこれからも人と人をつなぐ様々な贈り物とともに、伝統に息づく日本の心を伝えていきます。

ライフスタイルに“ビタミン(元気)”を!
えひめstyle